

教科(科目)	公民(公共)	単位数	2単位	年次(コース)	2年次
使用教科書	東京法令出版『公共』				
副教材等	東京法令出版『テーマ別資料公共』『公共ワークブック』				

1 学習目標

人間と社会の在り方についての各自の見方・考え方を動員して現代の諸課題を迫り解決しようと努力する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる力を育むことを目標とし、それによって平和的で民主的な国家及び社会の形成者として必要な公民としての資質・能力が育成されることを期して学習をする。

- (1) 現代の諸課題を考察する手掛かりとなる概念や理論について理解し、その上で、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を習得することを目標とする。
- (2) 現実の社会の諸課題の解決に向けて事実をもとに多面的に考察し公正に判断する力や、人々間の合意形成や自身の社会参画を想定した議論ができる力がつくことを目標とする。
- (3) よりよい社会の実現のために現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、多面的な考察や深い理解を通じて自国だけでなく各国の人々とも協力し合うことの大切さに気付くことを目標とする。

2 指導の重点

- ① 憲法や政治制度、経済の仕組みについての基礎的な知識の習得を目指します。
- ② 習得した知識を活用して自分なりに考察し、議論を通じて意見をまとめることを目指します。
- ③ 現代の諸課題を解決するために各国の人々と協力していく方法を自分なりに考えることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を考察する手掛かりとなる概念や理論について理解し、その上で、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実の社会の諸課題の解決に向けて事実をもとに多面的に考察し、自分なりに公正に判断し、人々間の合意形成や自身の社会参画を想定して自分の意見をまとめている。	よりよい社会の実現のために現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。多面的な考察や深い理解を通じて自国だけでなく各国の人々とも協力していく方法を自分なりに考えている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	現代の諸課題を考察する手掛かりとなる概念や理論について理解し、憲法や政治制度、経済の仕組み、国際関係についての基礎的な知識を持っている。諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実の社会の諸課題の解決に向けて事実をもとに多面的に考察し、自分なりに公正に判断し、人々間の合意形成や自身の社会参画を想定して自分の意見をまとめている。	よりよい社会の実現のために現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。各国の人々とも協力していく方法を自分なりに考えている。
評価方法	定期考査、提出物	定期考査、提出物、授業態度	定期考査、提出物、授業態度

5 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	第1編 公共の扉をひらくために 第1章 公共的な空間をつくる私たち (4時間)	○自分とは何かについて考察する。 ・自分たちを取り巻く社会の捉え方、文化、青年期、多様性、宗教について知識を得る。	a b c	提出物、授業態度
5 6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方 (4時間)	○自分が依って立つ事柄について学ぶ。 ・個人の幸福、自由、正義、公正など、世界の先人たちの判断基準について知識を得る。	a	提出物、授業態度
6	第3章 公共的な空間における基本原理と日本国憲法 (12時間)	○個人の尊重と政治との関係について考察する。 ・これまで必要とされてきた権利について知識を得る。 ・権利を保障するための憲法について認識する。 ・今後、新たにどのような権利が必要になるか、自分なりに考える。	a b c	提出物、授業態度 これまでの内容の定期考査
7 8	第2編 よりよい社会の形成に参画するために 第1章 日本の政治機構と政治参加 (10時間)	○どのような政治組織が望ましいか考察する。 ・国会、内閣、裁判所、地方自治、選挙、政党など、現状の政治組織について知識を得る。 ・それぞれの組織の改善すべき点を調べる。	a b c	提出物、授業態度
9 10	第2章 経済のしくみ (12時間)	○経済の仕組みや経済学の考え方を学ぶ。 ・市場の仕組みの理論についての知識。 ・経済の現状を学ぶ。株式会社の仕組み、国民所得について、景気変動と物価、財政の役割と課題、金融の仕組み、中央銀行、金融自由化。	a	提出物、授業態度 これまでの内容の定期考査
11	第3章 変化する日本経済 (8時間)	○日本の経済の現状と問題点について考察する。 ・戦後復興、高度成長、安定成長、バブル経済、中小企業、農業についての知識を得る。 ・日本経済の問題点について考察する。	a b c	提出物、授業態度
12	第4章 豊かな生活の実現 (4時間)	○比較的自分に身近な問題について知る。 ・契約と消費者主権、労働者の権利、社会保障について、日本の現状や法制度を理解する。	a b c	提出物、授業態度 これまでの内容の定期考査
1	第5章 国際政治のしくみと動向 (6時間)	○国際的な人権保障のためにすべきことを考える。 ・国際法、人権規約、国連、冷戦、人種民族問題、核兵器廃絶について知識を得る。	a b c	提出物、授業態度
2	第6章 国際経済のしくみと動向 (4時間)	○公平な貿易とは何か考察する。 ・貿易の目的、自由貿易と保護貿易の考え方。 ・外国為替、国際収支、国際経済の現状について理解する。	a	提出物、授業態度 これまでの内容の定期考査
2	第7章 国際社会の現状と課題 (4時間)	○日本のすべきことは何か考察する。 ・地域統合や南北問題についての知識を得る。	a b c	提出物、授業態度
3	第3編 持続可能な社会をつくるために (2時間)	自分で課題を設定して調べてまとめる。 民主主義、格差など。	a b c	提出物、授業態度

6 観点別評価を総括して評価する際の比率

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
45%	35%	20%

7 担当者からの一言

「公共」で学ぶ内容は、大人ならば何かしら知っている内容ばかりです。例えば、会社員であれば労働について実感として知っているだろうし、スーパーに買い物に行けば、物価の上下について実感せざるを得ないと思います。18歳から成人となる生徒の皆さんには、もしかしたら実感はないかもしれませんが、「公共」で政治や経済などを学習し、今のうちに自分なりの見方や考え方を一通り準備しておけば、その場になってからどう考えたらいいかさえ分からないという状況にはならずに対処ができるのではないのでしょうか。